

農業総合センター 浜地域研究所のあゆみ



福島県農業総合センター浜地域研究所

「農業総合センター浜地域研究所のあゆみ」 発刊にあたって

平成18年4月、福島県の農業関係試験研究機関等が再編統合され、県民に開かれた機関として、新たに「福島県農業総合センター」が開設されました。これに伴い、中核機関となるセンター本部は郡山市に、地域研究機関は会津地域と浜地域の2カ所に設置し、専門研究機関である果樹研究所、畜産研究所、教育機関の県立農業短期大学校、さらに指導機関（病害虫防除所、肥飼料検査所）を統合するなど、集中と総合化を図った組織体制となりました。この農業総合センターは、技術開発・企画調整を核に、地域農業支援、先進的農業者育成・支援、食の安全・環境にやさしい農業支援、県民との交流・情報発信の5つの機能を兼ね備えた本県農業振興の新たな拠点として、先導的役割を果たすものと確信しております。

さて、浜通りの研究拠点となる浜地域研究所は、昭和10年（1935年）相馬郡八幡村（現相馬市成田）に農事試験場相馬水稻試験地として創立されてから、今年で72年の歳月が経過しました。この間、幾多の整備移転等の変遷を経て現在に至っておりますが、主要業務として浜通りの稲作技術や品種選抜、畑作物の栽培技術等の研究に取り組んでまいりました。

昭和43年（1968年）には現在地に移転しましたが、その当時は稲作の機械化の進展とともに省力化、コスト低減が課題となり、さらに米の生産調整が始まり、園芸部門ではパイプハウスによる施設化が進むなど農業の大きな転機となった時期でもありました。以来、本県の農業振興では、稲作の省力化・低コスト技術、品質の優れた水稻品種の育成、田畑輪換利用技術、園芸品目の拡大等が命題となりましたが、とくに当地域研究所が旧農業試験場相馬支場であった時期には、稲作・畑作等の技術開発に積極的に取り組み、多くの成果を挙げ農業技術の発展に寄与してまいりました。

しかしながら、本県内外の農業を取り巻く今日の情勢は大きく変化し、とりわけ食の安全・安心や環境に対する消費者の関心が高まる中で、消費者に信頼される農産物を安定して提供することが重要となっています。浜地域研究所は、今回の再編統合を機に、これまでの稲作・畑作に園芸部門を加え、浜通りの研究拠点として新たにスタートしました。この節目にあたり、当研究所の72年間に蓄積された研究業績を取りまとめ、「農業総合センター浜地域研究所のあゆみ」を刊行することに致しました。

今後は、長年の研究蓄積を踏まえながら、新しい時代に対応し地域に根ざした研究を遂行してまいりたいと考えております。最後に、本誌の刊行にあたり、ご協力を頂きましたことに厚くお礼申し上げますとともに、本誌が多くの皆様に活用されることを念願する次第です。

平成19年10月

福島県農業総合センター 所長 岡 三徳